

青森県偕行会護國神社御創建 百五十周年式年大祭に協力

稲村 孝司 陸自75

青森県偕行会は、6月6日、青森県護國神社で齋行された「護國神社御創建百五十周年式年大祭」に参列した。併せて、拝殿の左右に「英霊に敬意を」の垂れ幕と「偕行社の幟旗」を掲揚して、明治維新以後の数々の戦争で亡くなられた御英霊2万9183柱（例大祭から1柱増）の御霊を慰霊すると共に、150年目の節目を祝った。

創建祭は、青森県護國神社、同遺族連合会、同護國神社奉賛会及び英霊にこたえる会青森県本部が主催し、約160人が参列した。祭典は、修祓の儀、御扉開扉の儀、献饌の儀、祝詞奏上の儀、祭文奏上の儀、玉串奉奠の儀、祝電奉読、撤饌の儀、御扉閉扉の儀などが厳粛に進められた。

午後からは会場を近くのホテルに移し、祝賀会が約160名の参加を得て盛大に行われた。偕行会事務局長は、昭和の時代から、英霊にこたえる会青森県本部運営委員に指名されており、来賓と主催者の一員の立場での参加となる。

拝殿の左右に掲揚した「英霊に敬意

を」の垂れ幕と「偕行社の幟旗」は、4月の例大祭にも掲揚している。その意義は護國神社の御祭神である御英霊を、戦後教育の誤りから「戦争という、悪いことをした人達を祀つてある神社」という誤解を正す、大きな役割を果たしている」と、神社関係者から喜ばれている。

御創建150周年記念事業として、境内地の石碑を巡る、境内内遊歩道が整備された。旧軍関係の石碑は、「大演習賜宴碑」「弔戦歿諸霊碑」「日清戦争戦没者慰霊碑」「一戸兵衛君碑」「軍艦津軽之碑」がある。「大演習賜宴碑」は、大正4年の陸軍大演習の概要と賜宴の様子が表に刻されている。その一部を紹介すると「今上紹ぎ先帝鴻禧たる、每年秋冬交行（こもこもおこな）

ふ陸軍大演習は、：弘前練兵場に観兵式を行ひ、公園に陪者を開譚す。皇族・大臣あり、元帥・大将あり、以下の諸将校、その他：無慮（おおよそ）二千六百余人。奉觴して、斉祝・振式す」とあり、裏には「大正五年十月建設 青森県」と刻されている。なお、この大正天皇の行幸の際、行在所となったのが旧弘前偕行社であった。

「一戸兵衛君碑」は、青森県ただ1人の陸軍大将の頌徳碑であり、文豪徳富蘇峰の名文が刻まれている。同大将は20歳の時、上京して戸山学校に入学

し、明治10年少尉に任官、西南戦争に出征、明治27年、大隊長で日清戦争、同37年日露戦争に出征、同39年歩兵第1旅団長、同40年陸軍中将、第17師団長となり、大正4年大将となり教育總監、軍事参議官、大正9～11年学習院長となる。特別頭脳抜群でもなく、長州閥の強い陸軍で、よく大将まで出世できたのは、赫々たる武勲と軍人中の軍人として、その誠実な人柄は武人の鑑として、全国民から崇敬された結果と碑文にある。

残りの「弔戦歿諸霊碑」「日清戦争戦没者慰霊碑」「軍艦津軽之碑」の紹介は次回の機会としたい。来春には旧弘前偕行社が改築工事を終え、公開される予定であり、偕行社會員の見学を心待ちしております。

（写真：青森県護國神社拝殿。右に「英霊に敬意を」の垂れ幕、左に「偕行社の幟旗」が掲揚されている）

